

農村文学と俳句

岡村 春雷

俳句は吾國特有の文學として古來より傳わり、短文にしてその視野の廣きこと原則として十七文字に限定された中で、森羅万象を最大限に取り入れ、個性を生かした表現方法により、自由な誰でも何處でも容易に出来る。

其の中に含まれたもの、又句を通じて運想される風景、人物等簡潔にして卒直であつて、奥の深い文學は俳句以外に其の類をみない。古來より農村の俳人が如何に多いかは各位がすでに御承知の通りである。農村俳人の代表者として一茶あり、彼の句の中に一番重点的に取り上げてあるのは農である。外に如何なる山村と云えども、俳句をかいさぬ古老は少ない。神社の献灯に、賦額に俳句を見ない神社は極めて少ない。それ程農村に愛され親まれて居る俳句であるが、それだけに難かしくもある。原則として文字を十七字に限定する。俳句である以上春夏秋冬いづれも季節はつきり織り込む事は絶対條件である。

私は文化祭の出品句を拜見致しまして、吾が中里村に俳句の揃つて居る處は余り見受けられない。貝野地区には古來より秀句を發表して居る俳人が非常に多い。又田中の泉月師等も秀句を數多く残し、私達後輩によき手本を残された事はうれし。

土倉に慶村先生を中心としたグループが育成され、毎年の文化祭に健吟を寄せられることは心強い次第である。只俳句愛好者の聲を聞くに、現代の俳句は表現方法が變り、取りつきにくいとの聲を聞く。私も同感である。

古來より當地ではほととぎす派が多く普及されて居る關係で、やゝ古い型はあるが、何人も人真似する必要はない。古の中に個性を生かして行く事が出来れば充分と考へて居る。

然し乍ら俳句といへども時勢の流れに逆行してよい筈はない。古典文學にも斬新味を加へることは是非必要である。人真似せず自分自身としての個性を生かし、斬新味を加へる様

心掛けるならば至難ではない。幸い当地には日俳中里支部あり、井ノ川桂仙師を長とするグループがある。もし遠近に拘わらず、皆様の御招きあらば何時でも参上お話し相手になる事を嬉んでお約束致します。

老年組の楽しみに、中壯年組の親睦に、青年婦人のサークル活動の一環に、俳句こそ最も親しみ易い農村の文學であると確信致します。ので、廣く愛好者各位におすゝめしたい。又私達のグループに入会御希望の方がありましたら御一報下されば参上し、御説明申上げます。宛先は中里村桂井

川桂仙師宛に願います。三十年を一日にグム守り。牡丹雪。句座和む友も法衣を横に置く。

公民館図書について

中里村公民館図書の現有冊数は、約二千三百冊である。一日貸出冊数は年間平均して三十六冊であるから二五二冊の本が毎日村内の何處かで讀まれて居る勘定であるが、その讀書層は二十代が一番多く八〇%を占め、次に十代三十代の順となり、四十代以上になるとほとんど讀んでいない。

小説類が多く讀まれるのは何處の図書室でも同じ傾向のようであるが、農業図書の利用率はわずかに四割。新農村建設、新しい村づくり等々と呼ばれて居る今日一寸淋しい感じがする。小説についても、いわゆる肩のこらないものが多く讀まれている。まあ一日の疲れを癒す意味において讀むのであるならば別に悪くないだろう。しかし二十代の青年としてははもつと良書を選択する必要があると思う。

一生の中讀書に許される時期は、そして時間は實にわずかである。このこと一考えただけでも娯樂物ばかり追うことが許されなことに氣付かねばならないと思う。

又四十代以上の人は若い者を知る上にも社會の傾向を知る上にも公民館の図書室を利用してほしい。

のどの痛い人、せきが出る人へ

野菜のねぎを焼いて手拭いがかげに包んでのどに當てておきますと、一晩位でのどの痛みやせきはなおるそうです。

ネギは焼くと柔らかくなるので、三本位がよいときいておきますためして下さい。

三行知識

醬油のカビを防ぐには醬油一升に焼酎をさかすきに半分ほど入れておくといふ。

自衛官募集中

募要事項

- (1)採用予定人員 陸上一〇、〇〇〇名 海上約三〇〇名 航空約五〇〇名(海空の採用人員は増加することあります)
- (2)受付期間 三月一日から四月十五日まで
- (3)應募資格 三十三年六月一日現在年令十八歳以上二十五歳未満の者
- (4)採用試験 四月二十五日(五月十一日までのうち一日) 試験内容筆記、口述、身体検査
- (5)試験場所 長岡入隊
- (6)入隊 陸上 三十三年六月下旬 海上 七月上旬 航空 七月、八月、九月の各月上旬
- (7)詳細は中里村役場係に問合せ下さい。



行所館 民所開社
村公所新
中里町日
十

昭和三十三年年度豫算成立

一般会計三九、四七三、八〇〇円
特別会計一一、九五五、四七八円



高橋村長

中里村昭和三十三年年度一般會計豫算及國民健康保險特別會計豫算は、去る十日より開かれた定例村議会において原案通り決定された。これが内容は別掲の通りであるが、村長は提案に當つて、昭和三十三年年度の予算編成事情と次の如き一「施政の方針」を明らかにし、村民の協力を求めた。

◆施政方針

就任日なお浅く、村勢について充分な研究と掌握が出来ず、ここに申上げる適當なる施政方針を申し上げられぬことを冒頭率直にお詫び申し上げます。

現在私が考へて居る事は非常に多いが、これが解決運行には油という經費が伴ふことであり、それには余りにも財源に乏しく、隨つて到底村民の各位に御満足を得るような事業が出来ない現況にあることを非常に残念に思つておられます。

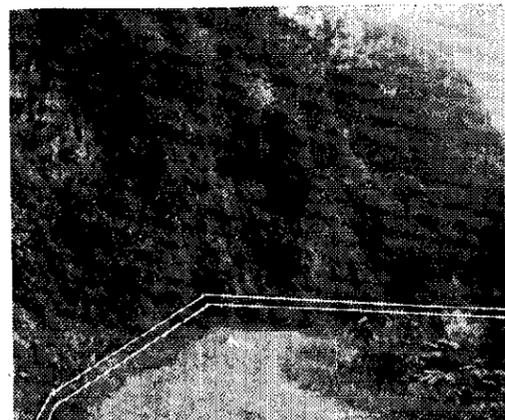
特にこれらの問題の解決に當つては、小さな問題は犠牲にせねばならず、かといつてその大きな問題が先の見透しのついて居るものでもないであります。

しかし乍ら、これらのことは何時でも取組む体勢になければならぬと考へて居ます。その中において先ずどうしても実行しなければならぬことがあるがこれらは何れも村長である私が考へ、計畫したもので

へツリに雪中隧道

縣道田代―越後田沢停車場線の通称へツリに、縣道事業として雪中隧道が三十三年度に開さされることになった。

計画によれば總工費約四百萬円で、中三分の一が地



なく、村民各位の計畫されたものであります。

私は即効果を見られるような問題でなく、將來村が發展し、幸福を招來するよきな仕事を考へてやつていきたい。

又御注文を受けて居る諸問題についても今即刻といふ譯にはいかぬが、逐次等を見込んでどうやら本年

昭和三十三年年度の予算編成に當つては、先ず歳入面から検討するに、大規模償却資産税の減收はあるが、他方地方交付税の増收を見込み、その他あらゆる増収等を見込んでどうやら本年

十二峠に有料道路 四月頃調査団

鈴木副知事は五日東京から歸り、「石打、角間八キロのいわゆる十二峠に道路公園が有料道路をつくるため、近く調査團を派遣するとのことだ」と語つたと六日の東京新聞に一齊に大きく取り上げていた。

この道路が出来ると、東京―直江津、東京―柏崎のコースが長野回りという面倒なコースの必要がなくなり、今までの東京―長野―高田―新潟コースで二十時間、東京―長野―十日町―新潟間が十七時間かゝつた

たことを基に残念に思つて居ります。

然し乍ら、歳入の枠内に於いて最も重点的に、効果的に考究して、予算の配分を致した心算であります。

なお本年度予算に計上出来ざる取残された数多くの案件が御座います。これらの諸問題は方針にのべた通りで御座居りますので何卒村民各位の御協力を賜わらんことをお願いする次第であります。

ものが八時間に短縮されるというもの。同副知事は去る三日東京で、岸道路公園總裁と会い、この話をまとめて来たもので、岸總裁は四月頃調査團を來県させる旨確約したという。

總工費は三億圓かゝるといわれる。

子供のシミ渡りに注意して下さい

集会の時間を守ろう

蘭の愛玩五十年(其二)

栽培の失敗十年

本屋敷 柳 直 春

盆栽家は十月の末にこれに蘭の来ない内に雁木や廊下に取入れて置くのです。が、自分もその例にならつて書院の縁側に入れて冬越す。

晴天の日には雨戸をあけて日光をあててやる。或年三月頃になつて日光浴をさせたり、灌水をやるべく雨戸をあけてよく見ると、若葉の根元に黒い斑点があるのを見つけた。おかしと思つて手をあてると直ぐ抜けてしまつた。よく調べて見ると葉の先端は青いが、根元は皆黒色になつて枯れているのに気がついた。

親の葉は生き、としていないので、全部枯れたのではなれないで楽しみにしていた。七月頃になつたら若葉が芽を出したのでほつと見たら、其の後よく調べて見ると、寒中のさむさむで軟弱の若葉だけが被害を受けて枯死したことがわかつた。

それからは十二月になれで厚肉には力めて時折日和のよい日には力めて日光にあてるようにしたので、絶対

も成績がよいのですが、色の故障が起り、又鉢の表面に穴があるので、細い棒で掘つて見れば、今度は「よど」が一匹いた。よし「よど」なら水に浸してやろうと鉢全体を水中に入れ、葉だけ出して一昼夜置き、翌朝鉢の表面に浮いている。これで大丈夫と水中より引上げて庭下の縁先に置いて、翌朝見れば又穴がある。まだいるのかと今度は農薬のDDT乳剤を薄めて、續けて二、三回灌いだので完全に撲滅することが出来た。

このように数回に及んだので、色々の被害を受けたので、今度は田の泥土を取つて天日で乾かして粉にし、よどを川砂を三割程度まぜ合せて置いて、鉢の底に砂利を二寸位の厚さに入れ、蘭を鉢の真中に直立させ、根の廻りに用意してある養土を入れ、ゆすりながら根の廻りにすき間のないようにゆすり、土を入れ鉢のふちより一寸位上の所までにする。終つたら其儘鉢を三分の一のところ迄水中に入れ、五、六時間も置くのである。鉢の表面に迄

足のひっぱりくら

コタツ冥想録

「隣の倉の立つのは自分の家の火事よりくやし」ということを思い出した。ケチな根性だが日本の山の中には、まだまだくやしき生きている生活感情らしい。

一人が不幸になると、さも自分が不幸になつたような嬉しさをヒソカに感じはしないか。腹の中のこんな虫を退治するクスリが欲しいものだが、とつくづく考へる。

例えば、先生方の勤務評定のさわざだ。

「隣の倉の立つのは」式の思考のもう一つ、

「隣の花は赤い」といふことがよく見えてしようがない。だから自分のところをよくしたらよさそうだから、やたらにヨダレばかりたらして羨ましがらつきだ。足許お留守で「ねたみ、そねみ」と来る。

人は人、俺は俺。といひ意味での個人主義的獨立精神を持つて、學ぶべき点は學ぶ。自分の仕事をよく仕上げ、工夫をこらす。

そして、共同運命体の一員として協力できるだけの協力をする、こんな氣持で此の世を生きたら、我ながらいいジサとなりバサとなり「今どきの若え者は」と

卒業式日程

田沢中學校	三月二十日	午前十時
倉俣中學校	同	右
貝野中學校	同	右
土倉分校	三月二十一日	午後二時
高道山小學校	三月二十四日	午前十時
田澤小學校	三月二十五日	午前十時
貝野小學校	同	右
倉俣小學校	三月二十三日	午前九時三十分
角間小分校	三月二十五日	午前十時

冬期分校の姿

西方西田坑冬期分校 桑原公平



私が始めてこの冬期分校へ勤務した冬のある日のことだつた。その日は朝から大變な雪降りだつた。

本校への連絡を終えた私は冬期分校へ歸るべく、雪の山を荷物背に雪道を急いでいた。しかし出發する時から懸念して来た通り、私が行く道が途中から降雪のために道の形もわからない位になつて来た。因つた私は背からカンジキをはきしボソ／＼とこぼれはじめた。

すると向うの方から誰かが一生懸命にこいで来るのが目に入つた。「だれだろう?」と思ひながら、降りしきる雪の中を凝視していると一人や二人ではない。そしてそれが子供達だといふ事がわかつた。

そのうち向うから「センセー」と大聲で呼んでくるのが聞こえてきた。

「オーイ」と私も大聲で答へながら急に歩を早めた。見ると男の子が五、六人で迎へに来てくれたのであつた。胸まである雪を一生懸命こいで来た子供達は、「先生、迎へて来たぞ、」と赤いほおをスゲボーンと

とんど全戸から出席してくるようになった。子供達も一生懸命勉強している。しかし私の経験した四冬の間に、この冬期分校がどれだけ改善されたか、と問われれば返事に窮す。

實際問題増えたのは時計と膳寫板位のものである。黒板と机、椅子の教材外にらしい教材は全然といつても本校から借りてこなければならぬのだが、それが仲々容易ではない。時々子供達の探究心に添ひかねて苦しまなければならぬ。實情である。容易な事ではないと思ひながらも、もう少しなんとかならないものだろうか。これが私達冬期分校職員共の共通の悩みである。願ひなのではないでしようか。

一日中あつちへ行き、こつちへ行き、教室の中を廻つてあるいて指導してやりやつてみて、時々むすかしいものだと、ときどき考えを。しかし二十八名の子供達は今日も一日みんな元氣で勉強したり、スキーにのつたり一生懸命だつた。

毎年冬になれば問題にさへなれば、春になれば消えて行く冬期分校問題、今年も又、雪消えと共に忘れ去られてしまふのであろうか。

おもひり

角間分校三年 山本 正樹



ぼくは學校から歸つて、まはした。がけのところでは、おんをたて、スキーのう／＼と音をたてながら、りていこうとしたらおあさん「こもりをしてくれやれ」といつたので小さいすけじをおぶつて外にでました。外は日がたつていて、花のつぼみでした。それをおぶつて前庭にやつたり、わらつたりしてしま

山の方をみると、春の光の中におきとうが田のあせに三つ四つでいた。こごなつて手をだそうとするが、ふんとつよいにおいはなをつきました。

それがとつてボケツトにいられた。ボケツトの中はふあんとして、春をつんでいようです。

やがて前庭ははらがすいたのかないてこまるのでうちにかえつて、おあさんからみるくをこしらつてもらつてのませると、よつぽとはらがへつたのかすくんでしまひました。

またおぶつてそとにでました。前庭はおながいづばいでもちがいのかよくなつたので、もうだいたいよぶと思つて、そうつと下におおすつとすぐおきてしまひました。またおぶつてこんどは妹のかつえと、りえ子とでかくれんぼをすることにしまひました。

ぼくがいちばんはじめにおにになりました。いくらさがしても見つかからないのでよびました。もういつかいじやんけんをしたら、かづえがおにになりました。かづえがおにでもみつからないところをいたのに前庭が隠れました。すぐみつかつてしまひました。くやし

春分の日

三月二十一日は春分の日

國民の祭日で農事はじめのお祭りをしたり、寺やお墓にお参りするならわしは全国的にある。

ところがその「春分」のいわれは、南半球を真上から照らしていた太陽が、地球の公轉によつて赤道の真上を照らし、地球上どこでも昼と夜の長さが同じになる。

これを昼夜平分といひ春分の「分」もここからきていのだという。

詩

俺は考える人間になりたい
考えない人間は生活は毎日生きていても意味ないと思ふ

巴は
人のいやがる仕事を
善こんでするよう
心がける人間になりたい
「十日町青年學級」より



三太日記

田中 滝 沢 達 雄

三太は父の死んだ翌日強いて鼻唄を唄いながら下駄の整理をしていた。家の箱の中は親類の人で一杯である。夕邊一晩泣き明した目を人に見せまいとして大勢の箱の中に入っている姿を見せつけられ、とりまく人々のたぐ香の煙をじつと見ていたことは、わずかに八の彼にとつてはあまりにも痛傷が大きすぎるのだ。泣いたつて仕方がない、黙つていれば自然に想いは現実を否定しようと思ひながら、結局これが自分の現実なのだと思はされて涙が押え切れない程落ちてくる。しかしその涙を誰にも見られたくなかつた。それは人間の意地と、幼い時から見せつけられてきている人間の弱みにつけ込む人の世の哀しさを、おぼろげながら感じていた心がそうさせるのかも知れない。

秋の農繁期の終つたばかり、ついでに反撥したくなる。お母だつて泣いていたじやないか、俺だつて同じことだ。――

――お母だつて泣いていたじやないか、俺だつて同じことだ。――

――お母だつて泣いていたじやないか、俺だつて同じことだ。――

つた返すような葬儀もよやく終つた。となりの叔母さん達が「あんなにやさしくて人の爲によく戻して来た人が、何故早く逝かねばならないのだらう」と、過し日の後々を数々語りながら涙をこぼしに来る日が数日続いた。

三太は人にいたわられたり、なぐさめられたりすればする程愈々人に興味を見せまいとして、小さい胸に悲しみを深くおしかけておくのだつた。

たつた一度だけ、たまらなくなり泣き伏したことがある。埋葬を終り、大勢の焼香が終わつて歸つていった後、たつた一人杉の木の下から真新しい墓の前へとび出して、色のあせたすすきの花を前後に感じながら大聲で泣いた。

その日まで満ち足りたとはいふまでも、とにかく父母の愛情のありがたさも、生活の手段も何もかも忘れていられた程の幸福な毎日であつたのに、突然明日からこの小さい胸と、わずかばかりの田圃に頼つて病弱な母と学校へ通つてくる三人の弟妹を抱えて生きてゆかねばならぬ。一体どうやればよいのだから。神はよい人間の必ずしも味方でないことを感じ

た。そんならそれでよい、一寸だめし、五分だめし、よく／＼俺がヘコケルまじで悲運の神に立ち向つてやる。どんな嵐になつてもよしんば踏まれても蹴られても若芽は必ず盛り返す力を持つてゐるやうに。そう俺は若芽なんだ、西も東もわからない反面、世間不足がちな純心という美しさを持つてゐる筈だ。弱い華も立ち直ることを忘れてはならない。

そう考へてようやく家へ歸りかけた時は、既にどつぷりと日は暮れてゐた。どん底にある者の喜び、それは上に登る可能性が他の誰よりも多いということだつた。長い将来にとつては今の試験が必ずしも不幸でないことに一種の喜びと

ほこりを持つて取り組みはじめたのである。それから三年、ようやく曲りなりにも人並に生活できるやうになつた。そしてその生活を維持する爲に毎日を一時的ゆるみなく働き續けてゐる。

一年中家族四人で働き通して、十俵の米と十貫の繭を賣つて、公組公課年間三万四千圓余りを納めて、残りの金で文化生活なるものを追つかけてゆかねばならぬ。

三太は気が小さい、滞納を恐れて今日も明日も明後日も吹雪をついて日傭に出かけてゆく。

泣くより歌う方が好きだ――

朝の出掛に夕邊の歸路に大聲で歌を唄いながら……

な妥協を以てしては、白い祭壇。若し娘の調というが、四十の母の黄色な肉塊になお、そしてなお、そのいのちをかけた働くが幾度あつたというのか。

四十の無爲の歳月の積敷におつにすまじ込んで物知り振つてゐる隙に、いやしく輝く好氣と怠惰と、慣習も、もういやだ。思いきり、ピアノの鍵をたたく。

その不協音の中に、若しこの吹雪の夜、風にともしれば、吹雪の夜の風に、はしなくも逝く。

反歌
大磯の海は荒く静かだつた。だが、どうしたと言ふのか、冬の日の突現に風をさげ日ざしにぬくもりながら、セーターを編む女の顔は暖かいきづいて

青年会は組織面を考えよ

村 山 武

昨年青年会は組織再編成し、グループ活動を重点的にやるとの閣谷会長の構想の下に運動を開始した。私もその意見に双手をあげて賛意を表した一人である。私は従来から青年会活動の理想的状態はグループ活動であると説いて来た。その理由は青年はその欲するところに従い、各自その個性を助長し、技術を磨くことがかかろうであり、健全な若々しい農村文化を育てるものは自由な青年の楽しい集りであり、備しであり、研修であると思つて来たからである。

青年会は村の御用機関であつてばならず、利用さればならないことは勿論である。閣谷会長の理想はその点にあつたのだと解釋した。

しかし残念なことにその後の運動の現実の動向は決してはかばかしいものではなかつた。むしろ停滞のそりを免れなかつた。

その首魁はどこにあつたか。私はかつて小柳前会長と共に、活動の内部にあつ

た者の一人として、このことが深く感ぜられてならない。即ち農村青年の特徴について、最も悲觀的認識の立場に立つものである。

曰く彼等に愛國心又は愛村心があるか。否。

曰く彼等に人生目的があるか。否。

曰く彼等に改新意欲があるか。否。

曰く彼等に不言実行の誠實さがあるか。否。

曰く彼等に協力精神があるか。否。

唯目先の利害に汲々として何の爲すところを知らぬうつつを披かして事足りりとしてゐるのである。

この状態では何ができるといふのが、この現実の認識を誤る時、如何なる理想を持つた指導者といへども、運動の成功に導くことができない。最も重要であるべき年齢の中で、逃げ足の者があるときに至つては、はや言葉が出ない。

井ノ川福一君は本紙前号でさすがに彼らしい態度で基本的段階を示しておられたやうである。

理想もない情熱もない者を如何にしてリードするか至難な問題である。

私も一つの方法を提示し諸君の訴える。即ち組織的・共同協力的福祉活動、これである。それは組織的・共同協力的福祉活動に如何なるものがあるか。その一つとして環境衛生活動が考えられるのである。

衛生組合が結成されてより二年、少くとも青年は熱心にこれと取組んで来た。序々にこれはあるがそれは見えない力となつて、青年会の活動に貢献し、村民の生活の中に根をおろしつゝある。このことが偉大な事實でなくて何んである。

青年の特徴が理想を抱く事であり、情熱をもつて實踐することであるとすれば、まさしく青年会の使命は遅れた農村の発展に積極的貢献することである。

グループ活動は極めて重要なことであるがその反面、強力な組織力による団体の力を我々は見のがしてはならない。實生活上に於いて組織的行動の必要性、重要性は充分に認識されるべきである。

現在の青年会にその訓練が欠けている。その熱意も薄い。前述の如き青年の集

茂之君おめでと



寫真 左から四人目が茂之君

くちびるに歌をもつて、心の太陽をもつて、茂之君の口からは今、靜かに國語教科書の最後の一行が流れ出した。最後の總仕上げなのだ。

鈴木茂之君は、倉俣小學校の六年生、小兒麻痺といふ不運な運命を背負つた茂之君だ。

茂之君は、その行動共に全校児童の模範であつた。議長、委員長、部長と與えられる重責の總てを、わよく片づけていつた茂之君だ。

「俺は大人になつたら、宇宙を征服して、宇宙日本國をつくる。それがだめなら衆議院議員になる」と優等賞を片手に卒業する茂之君の胸は、大きな希望に心

よるこびの修學旅行、そんな思い出の中に、いつも、茂之君が對するクラスの友達の友情があつた。「茂之君にやるんだ」と涙の砂や海草をナイロン袋につめる子供達の中で、茂之君は明るく素直に伸びていつた。

たしかに、茂之君の成長には、クラスの友情が大きな力となつてゐたが、その裏には、お父さん、お母さんの並々ならぬ苦心があつた。

雨の日も風の日も、熱心に足の不自由な我が子を送り迎えされる両親の愛に包まれて、茂之君は一度も學校をいやがつたことはなかつた。

教育に熱心な父兄は多い。しかし、茂之君の両親は特に教育に熱心であつた。子供は、家庭と學校との、たゆまぬ協力によつてのみ立派に成長するものであることを茂之君は見事に立証してくれた。

「僕は大人になつたら、宇宙を征服して、宇宙日本國をつくる。それがだめなら衆議院議員になる」と優等賞を片手に卒業する茂之君の胸は、大きな希望に心